とわたり

第 19 号
平成 15年12月31日
発行所
登渡神社社務所内
登 渡 会 編 集 室
電話043(242)3403

登渡会20周年奉告祭

西千葉 総鎮守 登渡神社略記

鎮座地　千葉市中央区登戸三―二―八
神社名　登渡神社(通称登戸神社)
御祭神　天御中主神　高皇産霊神
　　神皇産霊神　天日鷲神

御神徳＝天御中主神　高皇産霊神　神皇産霊神の三柱の神様は造化三神と称えられ宇宙の初めの時お生まれになられこの世の中のあらゆるものを初めてお造りになられたという御偉業から、災いを除き、人を苦しみから救い、あらゆるものを生み育て、お守りして下さる霊験あらたかな神様であらせらる。

御由緒＝当神社は正保元年（一六四四）九月五日、千葉家の遺族、登戸権介平定胤が祖先を供養するため千葉妙見寺(現在の千葉神社)の末寺として妙見大菩薩を奉斉し、僧定弁に守護させたのがそのはじめと伝えられ、その後、慶応三年（一八六七）に登渡神社と改め御祭神を天御中主神以下の造化三神に定め、明治四十一年に登戸字鷲塚鎮座、鷲神社を合祀し、現在は四柱の神様がまつられております。

御社殿＝本殿は総欅造り、銅板瓦葺屋根、奥行四間、間口四間の伽藍構造で嘉永三年（一八五〇）六月、信徒の浄財五百両をもって、葛飾郡八木村の棟梁紋次郎の施工により完成、また諸彫刻は、信州上諏訪の立川内匠正の作になるものでその精巧壮麗さの故に、昭和四十三年千葉市文化財に指定さる。平成二年（一九九〇）の大造営で本殿を現在の場所へ移築し、新たに鎌倉時代の建築様式に準じ、桧造り、間口六間、奥行三間の入母屋造銅板一文字葺の拝殿。前面を間口二間の流れ向拝とし、後方に間口五間、奥行二間半の切妻屋根の幣殿、神饌所、祭器庫を設け、幣殿は正面に高欄を廻し、床を桧板張り、天井は格天井鏡板張仕上げとした。

また、神輿庫、大師堂、古札納所新築、その他末社の修理、境内地の整備、植樹等の大事業が、今上陛下御大典という我国歴史上の佳年に成されたことは御神慮は勿論のこと、敬神の念篤き氏子崇敬者の皆様方の御尽力の賜物であると存じます。

積み重ね向うもの

登渡神社宮司
星次百太郎

何とはなしの慌ただしさの内に、本年もはや歳末を迎えることになりました。今年は、日本の気候に特有の四季のけじめもことのほか曖昧で、春夏秋冬の区別さえ不明で、しかも内外の不況や不穏な社会情勢に悩まされた一年だったので、季節の風情や感慨にふけることもなく、ずるずる流れ込んだような歳の暮れであります。一年間を振り返ってみて、心も晴れず納得の行かぬままに年末を迎えた人が大半であろうかと思われます。

そのような歳の中、当神社では祝賀に当たる慶事がありました。昭和五十九年十一月二十三日に登渡神社氏子会の承認を得て、登渡青年会（現・登渡会）が発足され今年で二十周年の慶賀の歳を迎えたことであります。

会員募集の「目的」『この会は登渡神社のご神徳に感謝し、諸行事を助勢すると共に相互の親睦を図り、ご神徳を宣揚する事を目的とする』以上の主旨に御賛同の方、男女を問わずご入会下さい。――という募集方法で会員を募ったところ、発会当初は十名足らずの会員でしたが、今は四十有余名になり、年々歳々、会の充実が成されていること、衷心よりお慶び申し上げます。

人は二十年で成人になる。同様にこの歳月の経過は登渡会が立派な大人になったことを意味する。普通十年一昔といい、石の上にも三年ともいう。何も知らずに三年経って、覚えたつもりで三年、あと三年でようやく慣れたかなと思う時期があるが、一年加えても実はまだまだ不足なのである。その十年を二巡りしてどうやら一人前になることが出来ると云われている。二十才で登渡会に入会した会員は四十才を越え、三十・四十才代で入会した会員は、それぞれ二十をプラスすれば……。

私が丁度四十才の時に会が発足し、今年還暦を迎える歳となってしまいました。その間、種々なことが有りましたが、あっという間の六十年。というのが本音であります。登渡会の同志と共に行動している時は、歳のことなど忘れてしまうのは私だけではないと思われます。老いも若きも。私より先輩の会員の方もおられますが、きっと考え方は同じであると信じます。現在会員は下は二十代から上は六十を十二分に過ぎた方もおられますが、幅広い年令層の中、皆、本当に楽しく愉快に神社のため御奉仕、助勢をされている姿を目の当たりにするにつけ、実にすばらしい会だと心の底から讃美する日々であります。

尚、当神社では平成元年二月十日、氏子会の役員の方々が相寄り協議に協議を重ね、総意の賛同を得、本殿移築、幣殿・拝殿・神輿庫新築。末社の修理、境内整備等の奉告祭を斎行する運びとなりました。このことは皆様すでにご案内の通りであります。

平成二年六月十七日、時あたかも今上陛下御大典という我国歴史上の佳年に、前述の大事業が成されたことは、敬神の念篤き氏子崇敬者の赤誠が実り、みごと完成出来たということは論を待ちません。その折々に氏子会の助勢をよくし、細かいところに気を配り、りっぱに完成した諸事業の集大成というべき本殿遷座祭（御神体を仮殿（登渡会館旧館）より新装成った本殿へお移り願う御祭事）の折りに、宮司以下祭員、氏子会の役々の方と共に、祭典を御奉仕した会員の凛とした装束姿、今だ脳裏から離れません。誠に感慨深く、生涯の思い出に残る快挙であったと信じるところであります。

神社で斎行される年間の祭事は一月一日の歳旦祭に始まり、十二月三十一日の除夜祭迄十数回斎行されます。何事も執り行うにつけ準備に始まり後かたづけで終る。神社の諸行事も全くその通りで、なにしろ準備です。準備万端整いしかる後に行事に入る。全てが旨く運ぶ、準備が整っていれば、その次第に従い進行すれば間違いなく成功する。言うは易し、行うは難しといわれているように、何か手落ちとかあやまちはあるもので、毎年同じことの繰り返しをしていてもしかりである。であるから、準備に時間をかけ、よくよく協議するのである。従来からの方法を

変えてみると当面真新しい気もするが、所詮、単なる試行錯誤に過ぎぬこともありますが、又、その反面、豊かな感性と、物事を多面的に把握し得る幅広い判断力を身につけることもあります。

会発足以来の流れの上に形づけられた活動を改めて認識すると共に、事が達成するまで繰返し行うことの重要性、受け継いでいくことの重要性を再確認し、後に続く若人に夢を与えて貰いたいと信じて止みません。

つれづれに会発足当時から今日迄の事々を思い出すと感慨無量のものがあります。

何といっても思い出を作ってくれるのは一泊二日の親睦旅行です。もう十数回は実施済み。会員相互の親睦を図るのは、これに勝るものはありません。

若葉区原町鎮座熊野三社大神の神社総代であられ登渡会の会員でもある本木信夫氏の田をお貸しいただき御斎田とし、伊勢神宮より譲与された籾種「イセヒカリ」を毎年四月二十九日のみどりの日にお田植祭を、秋には抜穂祭、それぞれ斎行し、田植えをし稲刈りをする作業の終えた後の直会（なおらい）の宴、原町の方々との交流と親睦を楽しみに平成九年より今日迄継続しております。仕事を無事終えた後の御神酒と肴は実に旨い。瑞穂国（みずほのくに）。

寒川神社氏子青年会、蘇我比咩神社神輿保存会とも平成九年より各会持ち廻りで三社合同懇親会と名を立て、年一回、なごやかに、たのしく御酒をくみかわしております。各神社例祭の神輿渡御にはそれぞれの会から有志が集まり、お互いに助勢し合っております。

おまつりで欠くことのできないのは、まつり囃子だということは周知の通りです。登戸囃子連の歴史は長く、近郷近在でも有名であります。それこそ先輩諸氏が後を受け継ぎ代々伝承してこられたのですが、近年種々の手立てをしたのですが中々後継者が見つからずなやんでいたのですが、会員の中からこころざしを同じくする輩が数名相集い、先輩方のご指導よろしきを得、みごと今日の登戸囃子連を継承していることは皆様既にご存じの通りです。それにも増して喜ばしいのは、地域の子供達に伝授できる迄上達したということです。毎週金曜日の夕刻になると、境内にテンツクテン……と太鼓の音が響き渡っております。本当にいい音色です。これで登戸のおはやしも当分安泰でしょう。

この他にも登渡会が出来てから始めたこと種々ありますが、紙面の関係上控えさせていただきます。

二十一年目は二十年間の努力の積み重ねの上に立って向うものである。会員諸兄がその自覚のもとに、互いに協力し合い、登渡会の「目的」の主旨を今一度熟慮し、会興隆のため、更なる前進をお願い致したいと願って止みません。

登渡会二十周年と云う節目の佳年に当たって心より祝意を表すると共に、今後、益々の発展を念じ、ただ、ただ感謝と御礼のみ申し上げ祝辞と致します。

多謝多謝

登渡会創立二十周年迎えて

登渡神社氏子会本部長
佐野尚男

登渡会創立二十周年を迎えるに当り、心よりお目出度い事だと言わせて頂きます。思い起こせば昭和五十年頃は神社の諸行事には、町内の男女老人等がそれぞれ箒や鎌を手に、頭に手拭麦藁帽子を被り掃除草取りに動員されて行われていました。それと共に鳶の高橋氏、三門氏、川口氏（天狗役）江島氏等々のボランティアの方々に依って、諸行事が行われて居りました。

それが登戸地区の区画整理により地区から転出されて行く方が多くなり今迄の状態では行事の維持が困難になり宮司さんは苦慮されておられました。そこへ登渡青年会が発足されて、諸行事も円滑に行われる様になり、又会員も増加され、名称も登渡会となり充実した運営がなされて来ました。

今後若い男女会員を募り神社共々発展される様祈念致します。

今思うと

登渡神社氏子会副本部長
齊藤幸男

登渡神社登渡会創立二十周年おめでとうございます。

時の流れとよく言いますが、神社氏子会役員になりその後四十年近い歳月が過ぎ未だに御指導いただいている次第です。

当時の祭りには特に、ゴミが境内、道路まで散乱し、ダンボール箱に腐りかけたリンゴ、ジャガイモなどが置いてあったり、小麦粉が流れ切れず下水に詰まっていたり、割り箸等燃える物は掃き寄せて燃やすのが朝仕事の一つでした。雨が降ると境内は一変に濁流と化し、後に深い溝と成った所に土を出す等、限られた人数では大変だった思い出が有ります。

そのころ子供の成長と共に地域活動にも誘って戴き、三丁目子供会育成会、空手会（登空会）、PTAソフトボール、少年ソフトボール、富士登拝の会等にかかわり色々な場で神社、祭りの話しなどをしつつ、多くの方にご理解いただきました。

又、登渡青年会設立に多大なるお力添え戴き、神社氏子会本部長就任後も絶大なる御尽力戴きました、故金子武様との出会いは将棋が縁でした。並べ方がわかるくらいの自分が前に座る羽目に、数秒で我が王様は………。この縁で、商売のお付き合いも戴きお伺いするうち「氏子役員を助勢する若い会を作りたい」と話すと、「そういうことなら力に成るから」と神社役員経験者宅などを一緒に説明説得に歩いてくださりもしました。御苦労を、会報創刊号で述べていらっしゃいます。（「若衆宿を作るのか」と、昔的イメージを強く持った人が多かった様にも感じました。）

最初は五人だったが、一歩前に進もうと言う事で、昭和五十九年春、故西澤英男様を代表に活動開始。同年十一月二十三日「登渡青年会」と大きな名称を戴き会則に添って躍進、平成四年に睦会と共に、神社隆盛と地域の繁栄、尚一層の会発展を願いまして、「登渡会」と名称を変えた訳です。

最後に、須田茂夫会長始め会員諸氏の御健勝と御多幸を御祈り申し上げます。

登渡神社ホームページを開設

この度、登渡神社のホームページを開設いたしました。登渡神社では、例祭、神輿渡御など年間を通して様々なご祭儀を執行しておりますが、それぞれのご祭儀は日本人の生活や慣習と無縁ではありません。私達が日本人として生きていく中で神社を通していろいろなことを知ることは、人生の中で貴重な糧となることでしょう。また、会報「とわたり」の中で紹介させていただいておりますように、登渡会やお囃子連など、神社をとりまく活動も活発であります。これらの活動を含めまして、新しく開設されたホームページの中で今後益々充実した内容の情報を発信していきたいと考えておりますのでたくさんのご意見、ご要望、また皆様からの情報をお寄せいただきたいと思います。

登渡神社ホームページ
URL:www.towatari.yic.or.jp

どうかよろしくお願いいたします。

登渡会に参加しませんか？

登渡会に参加しませんか？

登渡会について

登渡会は登渡神社の御神徳に感謝し、諸行事を助勢するとともに、会員相互の親睦を図る完全なボランティア団体です。

千葉で生まれたとか、育ったとかは全く無関係です。現在あなたが千葉にいれば、それだけで立派な入会資格があります。

ボランティアではありますが、年会費を2，000円のみいただいております。（年間です！）それ以外の費用はかかりませんのでご安心ください。

古き良き時代の思い出として「村の鎮守様」が脳の中に浮かんできませんか？昨今では、「隣は何をする人ぞ」で代表されるようになかなか近所付き合いも簡単に出来ない世の中になってしまいました。子供の教育だってそうですよね。友達も近くにいないとか、少ないとか色々問題も少なくないようです。我々登渡会は登渡神社のこともさることながら、神社をとりまく地域のボランティアとしても意味のある活動をしたいと考えております。特に9月の例祭で神輿が出るときなど、自分も担ぎたいという人達が結構います。どうぞ遠慮しないで下さい。子供達にもお父さんの格好の良い姿を見せてやってください。入会は簡単です。登渡神社の社務所に来られるか、あるいはお電話をしてください。

ご入会についてのお問い合わせは下記までお電話ください。

御神徳

登渡（とわたり）神社の御神徳

登渡（とわたり）神社の御祭神

天御中主神（あめのみなかぬしのかみ）
高皇産霊神（たかみむすびのかみ）
神皇産霊神（かみむすびのかみ）
天日鷲神　（あめのひわしのかみ）

天御中主神、高皇産霊神、神皇産霊神の三柱の神様は造化三神と称えられており、宇宙の初めの時お生まれになられ、この世の中のあらゆるものを初めてお造りになられたという御偉業を行なったと伝えられております。

そのため、災いを除き、人を苦しみから救い、あらゆるものを生み育て、お守りして下さる霊験あらたかな神様と仰がれております。

天日鷲神は一般にお酉様として知られ、豊漁、商工業繁栄の守護神として古来郷土の人々の篤い信仰をあつめてまいりました。

登渡神社の御祭神はこの造化三神と、合祀された鷲神社の神様であります天日鷲神の四柱の御祭神であります。

由緒

登渡（とわたり）神社の由緒

当神社は正保元年（1644年）9月5日、千葉家の遺族、登戸権介平定胤が祖先を供養するために千葉妙見寺（現在の千葉神社）の末寺として妙見大菩薩を奉斎し、僧定弁に守護させたのがその初めと伝えられております。

その後、十四世貞胤の時、慶応3年（1867年）12月26日に社号を登渡神社と改め、御祭神を天御中主神以下の造化三神に定め、明治41年（1908年）、登戸（のぶと）字鷲塚（現在の千葉市中央区新千葉3丁目）鎮座、鷲神社を合祀し、現在は四柱の神様が祀られております。

また、昭和48年（1972年）8月5日には、御鎮座三百三十年の記念臨時大祭を執行し、更に、平成2年（1990年）6月30日には本殿を移築し、新たに幣殿および拝殿を新築いたしました。

また神輿庫、大師堂、古札納所新築、その他末社修理、境内地等の整備も併せて行い、遷座奉祝祭が賑々しく斎行されました。

登渡（とわたり）神社ホームページへようこそ

登渡（とわたり）神社ホームページへようこそ

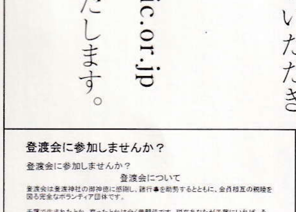
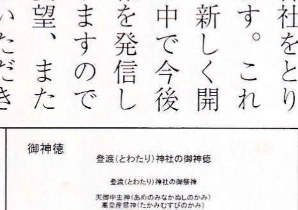
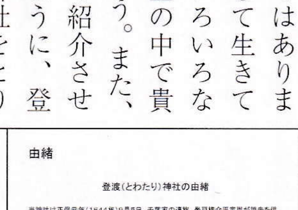
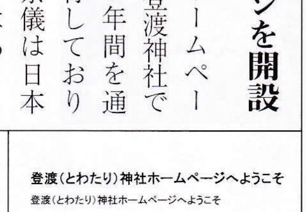
西千葉総鎮守

登渡神社（通称登戸（のぶと）神社）

宮司　星次（ほしなみ）百太郎

鎮座地 千葉市中央区登戸3−3−8

電話　043-242-3403

登渡会二十周年を迎えて

登渡神社氏子会登戸一丁目支部長
永井英行

登渡会創立二〇周年誠におめでとうございます。この二〇年を振り返ってみますと、創立時はまさにバブル経済の真只中で世の中大変勢いのあった時代でした。会員の皆様におかれましては希望に満ちたスタートであったと推察致します。そしてその間会員の増強と親睦をはかりながら、今日の隆盛を迎えました事は、歴代の会長さん始め会員の皆様の努力の賜物と敬意を表するものであります。しかし今は逆に失われた十年と云われ、「経済」「教育」「治安」等々我々がかつて経験した事がない程世の中のしくみが大きく変わり価値観の相違等々大きな転かん期を迎えております。（しかしながら）この様な時代だからこそ原点にかえりこれからどうしたらよいかを皆んなで真剣に考えていく時だと思います。幸い登渡神社を中核として地域住民との連帯を趣にした登渡会の皆様の力によりすばらしい地域が出来ています。氏子会も自治会員も毎年の登渡神社の祭礼を楽しみにしています。会員皆様の益々の御活躍を祈念申し上げます。

登渡会二十周年に寄せて

登渡神社氏子会登戸、新千葉二丁目支部長
市角明

敬神崇祖の心は、考える人間の本能に近いものであるような気がしております。

遠い昔、一つの集団が新天地を求め守護神（時にはその分身）を携えて移動、町の原点となっているという話を聞きます。

神社やお寺の起源には様々のケースがあると思いますが、いずれの場合も地域集団の心の拠りどころとしての必然性のなかに生まれ、永い年月の間、祈りと感謝の歴史をきざんで今日に至っております。西千葉総鎮守として誇れる私達の登渡神社、その活動の中心となっている登渡会二十周年、本当におめでとうございます。

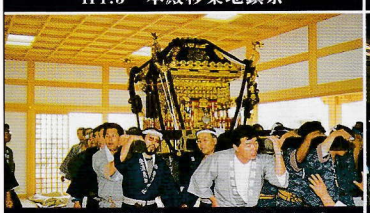
今後ともますます発展を続けて下さることを願い、感謝とお祝いの言葉とさせて頂きます。

二十年のあゆみ

H1.5　本殿移築地鎮祭

S61.2　青年会会報創刊号

S59.11　登渡青年会発会奉告祭



H2.6　新拝殿にて神輿担き上げ

H1.11　幣殿、拝殿上棟祭

H1.7　幣殿、拝殿地鎮祭

H2.6　奉祝稚児行列

H2.6　本殿遷座祭

H2.6　本殿遷座祭

H15.11　登渡会創立20周年奉納

H9.4　御田植祭

H6.11　御鎮座350年奉祝祝賀会

登渡会の二十周年を祝う

登渡神社氏子会登戸二丁目支部長
新井大

この度登渡会が二十周年を迎えられますこと誠に慶賀に堪えません。

登渡神社が当町内に在りますので我々は昔から身近な鎮守様として尊崇し子供や孫のお宮参りから七五三・成人と成長の節目にお参りして御加護を頂いております。又、初詣・節分・例祭と季節毎の参詣により心身を清めて頂き安心して日常の生活を送っております。

この様な神社の動きを永い間身を以て支えて来られたのが登渡会であると思っています。須田会長を始め多くの皆さん方が例祭に神輿を担ぐ威勢の良い姿に皆が感動して拍手を惜しみません。鎮座以来三六〇年にならんとし、千葉市の中で知名度の高い立派な神社として注目され周辺の人口の増大と共に一層の隆盛が見込まれる登渡神社と表裏一体の関係にある登渡会の今後益々の発展を心から願うものであります。

登渡会二十周年おめでとう

登渡神社氏子会新千葉三丁目支部長
佐々木潤一

登渡会は昭和五十九年秋設立、以来二十年順調にご発展をとげられ確固たる基盤を築かれましたことは、まことに慶賀にたえないところであります。

登渡会（前身登渡青年会）は神社を崇敬し、神社への奉仕を通して地域の方々と交流を図り、住みよい町づくりに貢献することを目的に、現在四十八名の会員が神社の行事はもとより地域の諸行事にも積極的に参加して中心となって活躍し大変感謝されております。

登渡会がこのように輝かしい足跡を残すことが出来たのは西澤・齊藤・須田の歴代会長をはじめ役員並びに会員の皆様方のご尽力のたまものと深く敬意を表します。

二十年といえば成人を迎えたことになりますが、中国の仏書「伝灯録」に「百尺竿頭に一歩を進む」という言葉があります。登渡会の皆さん、これからも会の伝統を継承し新たな一歩を踏み出して下さい。弥栄（いやさか）をお祈りいたします。

登渡会創立二十周年祝賀会

ホテルグリンタワー千葉　H15・11・23

登渡会創立二十周年に思う

登渡神社氏子会登戸四-五丁目支部長
植草友義

創立二十周年、お目出とうございます。一口に二十年と云いますが、この間、神社を取り巻く町の環境が大きく変化しました。その中で祭礼等の諸行事を氏子会と協力して立派に遂行されて来ましたことは、会長を始め会員の皆様の努力の賜物と深く敬意を表します。しかし、登渡会の皆さんは働き盛りで大変忙しく、氏子会との意志の疎通を図る機会が十分でなかったと思われます。これからは、両会の交流をより活発化し、お互いの顔、名前が一致し、素直な意見を交換できる環境を整えていければと思います。なにはともあれ、我々の祖先は神社を中心に住民相互が協力しながら地域を発展させて来たと云われています。我々の住む町が、良い環境で益々発展する為にも、登渡神社の益々の弥栄（いやさか）を願い、氏子会と登渡会が相互に助け合いながら頑張って行きたいと思います。

子ども祭と共に

登渡神社氏子会汐見春日氏子会支部長
貞方登喜子

汐見春日自治会には、子ども神輿が有ります。もう五〇年にもなるので、古るび貫祿がついたと云えばよいでしょうか、三和会館は新しくなりましたが、まだ神輿まで手が廻らないのが実情です。けれど、登渡神社の祭礼に近い日曜日に子どもみこし祭を致します。

その時は前々から企画し自治会を挙げて協力いたします。当日は五ヶ所の休憩所に班長さん組長さん方がお手伝い下さり接待に廻って下さいます。子ども神輿が戻りお菓子を配った後、御協力下さった方と共に直会をいたします。各部に依頼したお料理も集まり、市長さんにもお出で願った反省会は何時も盛り上がって登渡神社祭典の露はらい的な存在になって居ります。

今後も次の時代を担う子ども達の思い出作りとして、より良い祭にしたいと思います。

登渡会二〇周年の発展を氏子会と共に華を咲かせる様に祈念し、筆をおかせて戴きます。

登渡会に贈る歌

一、年毎の みこしの渡御も 定まりて 登渡会の 意気は盛んなり

二、御社を 守り続けて 二十年 会の絆は さらに深まる

三、ひたすらに 神に仕える 心をば 永遠に伝えん 若き世代に

平成十五年十一月廿三日 鈴木富治

登戸四丁目
鈴木富治詠歌

感謝状授与者

齊藤　幸男
原　俊夫
西郡　久雄
小池　良三
青木　俊幸
中村　正夫
三門　康浩
櫻木　英一郎
吉井　広育

登渡神社に伝わる郷土芸能お囃子

緑町小学校教諭
伊知地和代

子ども達に、「あなた達にとって、神社って?無くなってもいい。」と聞きますと、「え、いやだ。寂しい。お祭りが無くなったらいやだ。」と言う答えが返ってきます。

かつて日本に「村」があった頃、人々は祭りとともに生きて来ました。祭りは人々のコミュニケーションの場でもありました。日本に「村」が無くなり、大人がふる里を失いかけた時、おりしも、小学校で総合的な学習が始まりました。緑町小学校の六年生は、自分の住む地域の発見・発掘をテーマに総合的な学習に取り組み始めました。三年前、登渡神社に伝わる郷土芸能お囃子を発見し、登戸お囃子連の齊藤さんに出会ったのです。

わくわくするお囃子の音に魅せられ、子ども達は登戸お囃子連の方からお囃子を教わるようになりました。毎年、祭囃子が子ども達で演奏できるようになるまで教えていただきました。締め太鼓、おうど、鉦(かね)、笛の音に合わせ獅子舞、ひょっとこ、おかめが踊ります。子ども達はお囃子のリズムが体に刻まれていたかのようにすぐ覚え、楽しく誇らしげに演奏します。

小さい時、美しい思いでをたくさん作っておくことが、やがて大人になった時生きる力になるといいます。失われた都会地域での大人と子どもとのコミュニケーションの場を登戸お囃子連の方々はみごとに作っておられました。

子ども達は、当たり前の営みのように無償で教えてくださる人の温かさに触れ、実に柔らかくいい顔になっていきました。今年はお囃子を知らない人に伝えたいと、みどり学習発表会で発表しました。

登戸お囃子連の方との出会いは子ども達にとって、やがて、ふる里の美しい思い出となっていくでしょう。子ども達にふる里の人の温かさや芸能を守っていく人々の営みを教えてくださった登戸お囃子連のみなさんに深く感謝いたします。

みどり発表会当日、学校に祭囃子が響き、登渡神社の斜面には彼岸花が美しく燃えるように咲いていました。

節分祭 15・2・3

登渡会二十周年を迎えて

登渡会々長　須田茂夫

登渡神社の御神徳に感謝し、諸行事を助勢すると共に相互の親睦を図り、御神徳を宣揚することを目的とし地域の皆様はもとより広く地域外の皆様とも親睦を図る中日頃よりご指導ご鞭撻を戴き平成十五年十一月二十三日登渡会が創立二十周年を迎える事が出来ました。先般ホテルグリーンタワー千葉で開催いたしました「創立二十周年祝賀会」にはお忙しい中多数のご列席を戴き祝賀会を開催出来ました事、併わせて関係者皆様に厚くお礼申し上げます。

想えば昭和五十九年十一月登渡神社星次宮司、氏子会の承認を戴き十一月二十三日西澤英男初代々表以下十数名にて御神前に於いて「登渡青年会」発足奉告祭を斎行し正式に会として発足いたしました。

以前はお祭り以外歩を運ぶ事の無かった神社、星次宮司、氏子会役員の皆様のご指導を戴く中で祭事一つ一つが新しい体験で神社行事に参加出来る喜びを実感していた当時でした。

発足二十年を振り顧った時、昭和から平成へと年号が受け変わると共に登渡神社も大きく飛躍変貌を遂げている。

平成元年本殿、幣殿、拝殿地鎮祭、上棟祭に始まり翌平成二年六月改修された本殿を一段と高い場所へ移築し新装なる幣殿拝殿、神輿庫の新築と、神社形態として建物を整え登渡神社が一新された。

真新しくなった神社を氏子の皆様とお祝いする多くの神事祭事、松明のほのかな明かりに照らされ厳粛に執り行われた本殿遷座祭、町内男女子供達が登戸小学校体育館で正装し行われた稚児行列と多くの祭事に携わる事の出来た貴重な体験はまだ記憶に新しい。

平成六年七月登渡神社御鎮座三百五十年を迎え記念事業として正面鳥居新規建て替え、正面参道新規敷替え、大神輿、小神輿修復を行い、真新しく甦った大神輿、小神輿を迎え祝い拝殿の中で担ぎ上げを行った事は登渡神社の長い歴史の中でも後世に語り継がれる一行であった。

例祭では神輿担ぎ上げが隔年に行われておりましたが、修復を契機に以後毎年担ぎ上げが行われている。これも偏に宮司を始め氏子会のご理解に拠る所と感謝申し上げます。

平成八年には登渡会の崇拝する登渡神社星次宮司が神職身分二級上に昇級され新千葉平成館に於いて祝賀会が開催された。

この様に登渡神社にとって多事大慶に携わってこられた事に会として感謝し誇りに思う。

登渡会も「登渡青年会」から「登渡会」と改称され初代西澤英男氏二代代表齊藤幸男氏の敬神の念厚く行動力に長けた努力と全会員の神社を崇拝する心を礎とし、本年創立二十周年を迎える事が出来ました事関係者皆様に感謝し厚くお礼申し上げます。

登渡会に入って…。

登渡会々員　岩本亮

若手二番手の私が今回初めて、「とわたり」の会報に載せて頂き感謝申し上げます。今年は一年間を通して神社の諸行事に参加し、宮司さん並びに登渡会の諸先輩方の暖かい雰囲気の中、たくさん神社の事を教えて頂き有難く存じます。

かつて平成十二年八月に、寒川神社例祭宵祭に御挨拶に行かれた齊藤氏、須田氏、吉井氏により神輿の話を頂きました。その幸運により当会に入るきっかけとなりました。地元先輩方と手と手を合わせ登渡神社の隆盛と地域の発展を期す当会の主旨に賛同します。又広い分野で活躍されておられる先輩方よりいろいろ御指導を賜り、時に難しい時世を生きていく指針を教わり家族同様にお付き合い頂いている当会が好きです。

当神社は宮司さんがいらっしゃり、無形文化財的なお囃子があり、三日間も続くお祭りがあります。そして、お祭りの華である一トンを超す常に御霊が入っている勇壮な神輿は登戸健児だけでなく、各地の担ぎ手も憧れる貴重なものです。来年は日曜日となりますが半纏を着用し、たくさんの方と登戸の街を練り歩きたいです。これからも数多くの方に愛される宮でありたいです。

登渡〝祭り〟考 XVII

登渡会副会長
西郡饒

一般的に神社の祭と言えば先ず一番に神輿を担ぐ姿が想像されるのではなかろうか？しかしながら神社の祭とは一年を通して行われるもので、新年元旦早朝の歳旦祭から始まり、年末十二月三十一日深夜の除夜祭に至るまで、実に多くの祭がある。一般的に知られている節分や初午、また七五三等も祭であって、それぞれが我々日本人の生活や習慣と密接に結びついているのである。だから、単に夏祭り等で神輿が出るときとか神輿を担ぐときだけが祭ではないのである。初詣や例祭、あるいは節分や七五三等の折々に神社に参拝し、お札をいただき、またそれらのお札を納めることも神社の祭に直接参加していることでもある。このように日本人として生れ育ち、日本にいる限り、我々は神社の祭とは無縁ではない筈なのだが、そこに強い宗教性を感じないだけではなく、日常生活に溶け込んでしまっているため、普段はあまり意識していないということなのだろう。従って、神社の祭とは、我々日本人にとっては「日常生活」そのものだとも言えよう。

しかしながら昨今の日本は、日本的なもの、日本人的なものからますます遠ざかりつつあるように見えて仕方がない。自分の知る限り、どこの国でも、自分の国の伝統や文化を守って行こうという動きが強いのだが、日本では自分の国の国旗でさえ認めようとしない中で子供の教育が行われている。この様な中では国に対する帰属意識も当然希薄になるだろうし、そうなれば古くからの伝統や文化といったものはそのうち過去のものとして語られることにもなりかねない。教会での結婚式や金髪の横行を目にする度に、日本人の精神構造が変わってきたのか、それとも自分自身が古過ぎるのか考え込んでしまう。金髪で神輿を担ぐのも良いが、単に御輿を担ぐだけというのではなく、その気持ちがあるわけだから、日本人として、もっと日本を知る努力をして欲しいし、内面を磨く努力をして欲しいと切に願うものである。

登渡会に思う

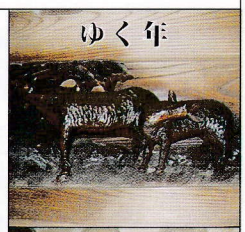
登渡会々員
原俊一

僕は、子供の頃から父親と一緒に登渡会の活動に参加してきました。そして二十歳くらいの時に、登渡会に入会し、本格的にいろいろな行事に参加するようになりました。

僕は、もともと神社のお祭りや年末年始での登渡会の活動に興味があったからです。

皆の中にも「興味はある」という人はいると思います。そのような人は是非とも活動に参加してみたらどうでしょうか。お祭りで神輿をかついでみるのからでもいいと思うんです。

地域の人達といろんな話をしながら体を動かしたりするのは、気持ちいいし、楽しい思い出になりますよ。



例祭 15・9・4.5.6

祭りの歌三首

一 長雨も
晴れて有志の
宮そうじ

一 暑い日射しに
杜は輝く
おみこしを

一 いざない囃す
笛太鼓
祭りの志気は
更に高まる

一 夕映えに
光輝き
おみこしは
ぶじ鎮まりぬ
登渡の森に

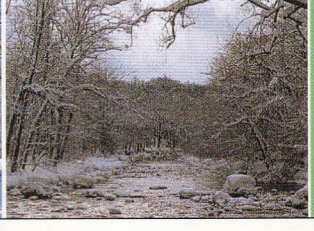
登戸四丁目
鈴木富治詠歌

登渡会活動報告

平成十五年

1・1 歳旦祭・お囃子奉納
～3 初詣の接待
参拝者数一七、八九五名
5 後片付け
15 奉謝祭
2・1 水神奉謝祭・定例会
3 節分祭・お囃子奉納
8 鹿嶋神宮参拝
～9 研修親睦旅行
福島原発見学
14 初午祭
3・16 千葉市郷土芸能発表会
お囃子参加
4・5 定例会
6 第二十一回ウォーキング
谷津干潟
29 御田植祭・原町御斎田
5・17 星次宮司還暦祝い
（新千葉平成館）
18 天皇皇后両陛下奉迎
提灯行列参加
九十九里豊海海岸
6・7 定例会
7・6 例祭打合せ会合
15 浅間神社例祭
8・2 定例会・例祭会合
16 二十周年実行委員会会合
20 寒川神社神輿渡御
21 寒川神社例祭
8・24 例祭準備・本殿・末社
神輿庫・境内清掃
9・4 夕御饌祭・演芸助勢
5 例祭・神輿渡御
6 夕御饌祭・演芸助勢
7 例祭後片付け・直会
21 抜穂祭・原町御斎田
10・4 定例会
二十周年実行委員会会合
9 蘇我比咩神社例祭
11 蘇我比咩神社神輿渡御
11・2 光町熊野神社五ヶ年計画
事業終了奉告祭参列
千葉市産業祭り
お囃子参加
9 会報編集会合
二十周年実行委員会会合
16 会報編集会合
23 秋季例祭
登渡会創立二十年奉告祭
登渡会創立二十周年記念
祝賀会（ホテルグリーン
タワー千葉）
30 会報編集会合
12・6 定例会・会報編集会合
28 迎春準備・本殿・末社
境内清掃・テント設営
31 大祓式・除夜祭
引き続き初詣奉仕

新春を迎え



平成15年度親睦旅行
鹿島神宮参拝と福島原子力発電所見学
H15・2・8～9

登渡神社16年度親睦旅行
男鹿・真山神社参拝となまはげ伝説
東北名湯の旅
H16・3
26～28

おやしろシリーズ(18)

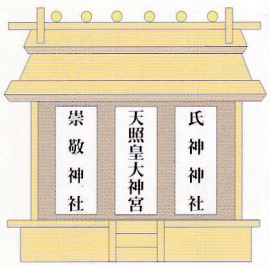
神棚のまつり

登渡神社宮司
星次百太郎

私たちが毎日無事に暮らしてゆけるのは、神さまがお守り下さっているからです。丁重に神棚をおまつりし、神さまの御加護に感謝しましょう。

家族揃って毎日神棚をお参りすることで、子供達も自然に「感謝の心」を感じとってゆくのではないでしょうか。それは、家族を大切にする心や、人や物に感謝する心を育てることにもつながります。神棚には、国民の総氏神と仰がれている伊勢神宮のお神札（天照皇大神宮）と西千葉総鎮守として祖先より受け継がれ、多くの方々の崇敬を得ている登渡神社のお神札、また特別に崇敬している神社があればそのお神札をおまつりします。

毎朝、朝食前に手を洗い、口を漱ぎ、身を清めてから神棚にお供えもの（神饌）をします。毎日お供えするものは、米・塩・水です。神棚からお下げした神饌は、神さまの御霊がこもっているので、家族でいただきましょう。初ものやいただきものなどがあった場合も同様に、まず神さまにお供えします。また、神前には神の宿る木、栄える木という意味をもつお榊を立て二拝二拍手一拝の作法で参拝します。



登渡会会員名簿

（顧）齊藤　幸男
（顧）鉄炮塚正一
（長）須田　茂夫
（副）三門　康浩
（副）西郡　饒
（副）吉井　広育
（副）小髙　政義
（会）渡辺　統道
（会）小川　恒義
（会）中村　正夫
（会）植草　毅
（企）西郡　達男
（企）浜田　素直
（企）小川　直樹
（広）古川　増雄
（広）染谷　一男
（広）滝口　信孝
（広）宮辺　健一
青木　俊幸
阿部　和夫
安藤　信夫
石原　一彦
石橋　毅
岩本　亮
臼井　正人
小倉　修二
貝沼　正良
川村　博章
黒田　邦彦
小池　良三
小宮　武
櫻木英一郎
宍倉　健夫
高橋　秀行
鶴田　浩雄
外山　秀夫
西郡　久雄
浜田　長平
浜田　俊明
原　俊夫
原　俊一
古島　一良
松井　貞
持田　誠
本木　信夫
森川　岩視
山沢　勝夫
横田　三男
（五十音順）

交通安全標語

車上での
携帯電話は
止めてから

会員募集

この会は登渡神社の御神徳に感謝し、諸行事を助勢すると共に、会員相互の親睦を図り、御神徳を宣揚することを目的とする。

以上の主旨に賛同の方、男女を問わず入会をお待ちしています。詳しいことは知り合いの会員もしくは登渡神社社務所までお気軽にお問い合わせ下さい。

TEL
FAX　〇四三―二四二―三四〇三

編集後記

御多忙中にも拘らず御寄稿頂き誠に有難うございます。

おかげさまで登渡会創立二十周年記念祝賀会も関係者多数の御列席を頂き盛大にパーティーを開催することができました。これもひとえに星次宮司を始め、佐野本部長、氏子会諸先輩の御指導の賜と感謝致しております。更に登渡青年会結成時に多大な尽力を頂きました今は亡き西澤初代代表と金子本部長に改めて衷心より敬意を表します。感謝感謝